

## はじめに

本書は中国の『増刪卜易』（野鶴老人著）の中から、占例を出し、それを解釈したものです。この『増刪卜易』はすでに発刊されていますが（香草社刊『五行易最奥秘儀・続五行易最奥秘儀』）、その中から、問題を多く含んだ占例と易卦を出し、それを正しい五行易の理と光山流の易解釈で説いたものです。

この原稿は、大熊光山先生から小生（六龍）が個人的に、野鶴の占例講義として長年かかって講義を受けたノートを基にして書き上げたものです。小生が光山師の説をまとめたものと解していただいて結構です。小生の独自の説などは一点もありません。

光山師は、中国の占術で独自に解釈できたり、新解釈などは、まずない。自己が発見したように考えていても、必ずどこかにあるものだ。——と言われている

した。

すでに野鶴の訳書が二冊出版されているのに、いまさらと、小生はノートをか  
かえ逡巡していたのです。この話を田淵英宗先生にふともらした時、「どんな形  
でもよい。ぜひ出版して我々に見せてほしい。野鶴の書をすでに読んだ人、とい  
う条件をつけてもよいではないか。ともかく光山師の五行易の説を埋もらせてお  
くのは、先生（六龍）の罪である。一刻も早く、どんな形でもよいから公開して  
ほしい」

という要望がありました。そこで小生は田淵先生の言を入れ、ノートの整理に  
かかったのです。やり出してみると、五行易のおもしろさが一段と増しました。  
と同時に、子平術と同じく、中国人のいい加減さ、正しい理をあげながら、それ  
に反する矛盾を平気で書いているズルさに閉口しました。

光山師は、そこを上手に整理してあるのです。本書によって、日本における五  
行易の正しい卦の読み方が、どなたにも習得できるはずです。

野鶴の占例と卦を出し、占断文をあげて、それを縦横に解してあります。

また、その卦に応用した五行易の理を、占例とは別に、こと細かに説いてあります。ゆえに占例を読みながら、易卦の読み方をどうするか？ 原理をどう応用するか？ がわかるはずですよ。

中国の張耀文先生は、『増刪卜易』は、断易の書としては『卜筮正宗』とならび称せられるすばらしい内容の書であるが、よい点も数多くあるかわり、欠点もある、と言われていました。

この欠点を、光山師が訂し、正統五行易の理を説いたのが本書です。

野鶴は市井の卜人で、五行易以外の占術をまったく知らない人だったそうです。ただ中医（漢方医術）の術に長じていたので、病占の卦の読み方が、非常に上手である、との事。これは張耀文先生の談。

註 本文中で「野鶴は(の) ……」と記しているのは、『増刪卜易』に述べられていることであり、「正宗は(の) ……」と記しているのは、『卜筮正宗』に述べられていることです。